

尼崎市社会福祉協議会

1. 尼崎市の被害状況

平成7年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災によって、尼崎市も死者48名、重傷者974名、軽傷者6,136名、全壊10,871名、半壊43,557戸と甚大な被害に見舞われた。

その結果、特に市の北西部の地域の住宅が倒壊し、また、南部の埋立地の住宅は液状化現象で、たくさんの人が住む場所を失い、学校の体育館等に避難されていた。

4月の声が聞こえるようになると、50か所2,218戸の仮設住宅の建設も進み、避難していた人々は転居とともに、やっと平静を取り戻してきた。

しかし、仮設住宅は約1,000戸を市の南東部の公園と工場地帯の間の広場に建設したこともあり、住民の方は今まで住み慣れたところを去るとともに、知り合いや、近所の友達からも離れて生活することになった。

その結果、特に高齢者の方は外出の機会等も減り、近所とのつながりもなくなってしまったので、孤独な生活を強いられることになった。

2. 仮設住民の悩みごとを聞く機会を

市社協としても、仮設住宅住民の悩みごとや話し相手になれないかと、事業の実施を検討していたところ、ふれあいのまちづくり事業で行っているふれあい相談員の先生から「ぜひ、仮設住宅へ出かけて相談を受けてみたい」との申し入れもあり、10月中旬から11月上旬にかけて、市社協から TENT を持ち出しふれあいセンターの設置されていない中規模仮設住宅の内5か所で「ふれあい茶話会」と名づけた相談所を巡回し開設することになった。

まずは、仮設住宅の住民に対するPR方法や、周知の方法がわからず、また、自治会等ができていない仮設住宅が多いため、どのようにアプローチすれば効果的なのか等々の壁に当たったが、とりあえずは実施する2・3日前に職員が各世帯にビラを配布し、当日も1軒1軒訪ね参加者を募ってみた。

その結果、40戸程の仮設住宅ではあったが、15人程の人が参加して下さり、相談員の先生や地域の民生児童委員、社協の会長とさまざまな生活問題等を話していただけた。また、地域の社協への加入や地域の社協からも援助の約束をされたり当初計画していたより成果があった。

また、2回目の実施では、日常から仮設住宅を訪問しているボランティアの方にも協力を求め、実施したこともあり、相談所に入り切れない程の方が来てくれた。

また、別の方法としては、冬の防火対策として、消防署の協力を得て消防訓練を兼ねて相談を行ってみたが、住民の関心の高さからも多くの参加があった。

やはりこのような事業を実施するに当たっては、住んでいる人のニーズにあった事業の実施方法が多く参加が得られるキーポイントであり、また、日頃からのかわりが大切であることを痛感した。

3. ふれあい茶話会の評価と課題

とりあえず5か所の仮設住宅で実施したふれあい茶話会であったが、今まで仮設住宅に住みながら話したことの無い人と話しをする機会が提供できたことは意義深かった。

また、地域の民生委員や社協会長にも参加してもらったので、今まで接点の少なかった仮設住宅と近隣住民との接点ができ、仮設住宅住民に地域事業への参加等を呼びかけてもらえたり、地域との連携の一助になった。

一方では、仮設住宅によっては、年齢的に片寄りが多く、リーダー的な役割を果たしてもらえる人が住宅内にいないなどの問題点も見えてきた。

社協としても今後も仮設住宅住民同士の連携を図って行く事業の実施を続けて行く必要があると痛感している。

4. 更なるふれあいを求めて...餅つき大会の実施

11月の末になると市社協事務局でも「ふれあい茶話会」の反省と、今後の取り組みについて検討した。

その結果、年末にむけてふれあい茶話会実施仮設住宅でイベントを実施しようとの動きになり、仮設住宅に当たってみた。

ただし、この2つの事業をきっかけとして今後その仮設住宅でさまざまな事業に取り組んでもらえることが大切であるので、そのような活動につながりそうな2か所の仮設住宅を対象に実施をした。

この餅つきは、住民からすれば下準備や当日の作業などひとりではできないことがたくさんあり、特に女性の方々には格好のミーティングの場となった。

また、男性は米を蒸す薪を捜してきたり、餅をついたり、普段にはない活気ある生活が訪れた。

また、そのうちの1か所では、関宮町の社協の皆さんにご協力いただき、通りかかった近くの住民の人たちもたくさん参加された。

	猪名川公園野球場	104戸	34人
	合 計		532人

事業概要表

	事業名	事業概要	8年度への課題・展望
交流 促進 事業	もちつき大会	仮設住宅自治会主催のもちつき大会に協力 蓬川公園仮設住宅（50戸） 大西新町仮設住宅（36戸）	更に一步踏み込んで近隣 住民とのふれあいを基本と した事業の実施を検討す る。
生活 支援 事業	ふれあい茶話会	仮設住宅で慣れない生活をされ、どうしても孤独になりがちな人達に 住民間でコミュニケーションを図っていただくために、5か所でふれあ い茶話会を実施。 また、ふれあい相談員の方々の参加・協力による悩み相談を実施。 参加人数 145人 実施場所 ・大西新町公園（36戸） ・蓬川公園（50戸） ・北城内（40戸） ・記念公園サブグラウンド（80戸） ・田能西公園（40戸）	今後も仮設内住民の連携 を図れる事業の実施を続け ていくよう検討する。
V コー ディ ネー ト	震災救援物資手渡し	全国から寄せられた救援物を片寄ることなく被災者に手渡した。 3月11日（土）～12日（日）両日でV200名。	
	ケア付き仮設住宅清掃	ケア付き、本市2ヶ所。12月3日（日）と12月17日（日）両日でV40名。 日常掃除のしにくい所のお手伝い。	
	震災復興イベント	被災者を招待し船だんじりに乗ってもらう。8月1日V30名。	
	ふれあいセンター交流 会	市内でカラオケを通じて交流を深めた。10月10日、V10名。	

ふれあいセンター状況

(1996. 4. 1現在)

地区名	仮設 数	開所月日	開設日数（週）	開設時間	運営委員の構成	主な事業内容	社協の 関わり
立花地区 橘ふれあいセ ンター	144	H7. 7. 25	4日 月2～3回行事等で 土、日開設有	10：00 ～16：00	尼崎ボランティア連絡協議会	月例プログラム（カ ラオケ・体操etc） 各種イベント 健康相談 調理実習	
園田地区 東園田ふれあ いセンター	200	H7. 7. 19	4日 月2～3回行事等で 土、日開設有	10：00 ～16：00	ふれあい食事会 園田ふるさと園 3グループでふれあいセンター運 営に伴いグループたんぽぽ結成	月例プログラム（カ ラオケ・ヨガ etc） 各種イベント 健康診断 誕生日会	

ふれあいセンター全体にかかわる成果と課題

【成 果】	【課 題】
-------	-------

明石市社会福祉協議会

1. 避難所でのボランティア活動

明石市にはボランティア連絡会があり、日常的に80グループ2, 682名がそれぞれ活動をしている。この震災では、社会福祉協議会が窓口となって、一般市民よりボランティア活動に応募された方が、443名あったが、唯一の連絡機能である電話回線の混乱によって情報の収集及びボランティアへの情報提供が十分行うことが出来なかった、また連絡がとれても交通機関も寸断されて足の確保ができないなどの混乱の中、また応募されたボランティアの個人々が地域で活動できるように中学校区に区分けするコーディネートの時間ばかりかかる中、調整が難しく、ボランティアに応募された気持ちをうまく活動の場にコーディネートすることができなかったことは事実である。

しかし震災直後既存のボランティアの人達は日常活動されている分野での要援護者の安否確認のため訪問活動が自主的に行われ、ひとり暮らし老人の方々は、震災の恐怖と不安の中でボランティアの声かけがどれほど心強いものになったか、涙をながして喜んでおられた方もいる。

ボランティアコーディネートをを行う上で今何処で何が必要な活動かを的確にとらえないままに、まずボランティアセンターでは、高齢者・障害者世帯からの個人の依頼によるガラス等が散乱する部屋の整理、家具の片付け、飲み水の確保の対応を行うと同時に市の要請で避難所28ヶ所への手伝いに入ること34日間（延べ785名）に及んだ。

当初避難所では、全てが初めてのことでボランティアも何をどの様に行ってもよいのか分からないままに、2～3名がお手伝いに入り避難されている方々の衣食の援助とそれぞれの避難者の心のケアが中心となった。また断水により水洗トイレの水の確保として学校ではプールからバケツで運ぶなどの支援も行った。

避難生活が長くなるにつれて、活動内容も食事の時間帯でのお手伝いだけでなくその他の時間帯では、避難者との話し相手・相談相手となって避難者の心を和ませるほか、抵抗力の少ない高齢者・乳児などの中には、インフルエンザ等の風邪が蔓延し、乳児を含む一家全員が風邪をひいてしまうケースもあり、ボランティアの看護婦の方が交代で3日間夜も泊り込んでの看病につき難く事を終えることもできた。

震災時にボランティアとして登録いただいた方も、交通機関の回復に伴い学校、職場への通勤通学が可能となりボランティアの活動できる方が減少したために途中から既存のグループにお願いしボランティア連絡会が中心に避難所の支援を引継ぎ行うこととなった。

また各避難所では、登録されたボランティア団体以外にも粕汁・みそ汁等温かいものの炊きだし活動で入る団体・個人もあり大変喜ばれていたが、こういったボランティア活動を行う団体等を把握することもできなかったために、避難所毎にまんべんなくボランティアが回る調整ができないまま終わったものもあると思われる。

その後、避難者も仮設等への入居も進み減少したために2月22日をもって避難所へのボランティア活動を終えた。

その後は、まだ余震の続くなか全壊・半壊の家屋に入っの引っ越しの援助を行う他、個別ニード（震災でケガをされた方の通院介助・薬取り代行）の対応を行い、仮設住宅でのボランティア活動支援へととなった。

2. 仮設住宅ケアネット事業への取り組み

明石市では、仮設住宅への入居が開始するにあわせ、医師会、保健所、市保健課、市老年福祉課、市障害福祉課、市総合福祉センター、市生活福祉課、市住宅課、4在宅介護支援センター、社会福祉協議会で構成する「仮設住宅ケアネット推進委員会」を結成し、仮住宅及び仮設住宅で生活する高齢者・障害者等に対して、保健・医療及び福祉サービスを中心とした生活支援情報を提供し、安否及び生活環境の把握を行い、対象世帯の要望・ニーズを各サービス実施機関に連絡するための仮設住宅ケア連絡員を配置し、対象者及び対象者世帯の生活を支援する事業に取り組んでいった。

仮設住宅ケア連絡員には、社協の登録ヘルパーのうちから15名あたり、概ね2週間に1度仮住宅及び仮設住宅に住む高齢者・障害者世帯を訪問して、各種福祉サービスの情報提供及び安否確認、世帯状況の把握を行うことになった。しかし、実際にケア連絡員が訪問を始めると時間帯があわないせいか不在宅も多く、初回調査で要注意世帯との情報を得ていた世帯においても数回の訪問によっても顔すらあわずことなく不安とともに時が過ぎていったケースもあった。

新聞紙上で仮設入居者の孤独死が叫ばれるなか、不在宅対策として近隣の方からの情報を収集するとともに、晴天の時は外出も多いと思われるので天気の良い日に訪問してみるとか、時間帯や曜日を変えてみるとか工夫するとともに、仮設住民の中からひとり暮らし高齢者の相互安否確認グループを募り、両面に「元気です」「よろしく」と書かれたマグネット板を利用して“お元気カード”として実施していった。

また、仮設入居当初は他団体やグループ、業者などの訪問が多く、ケア連絡員の訪問に対しての警戒心も強く、はなから受け入れを拒否されたり戸を開けてもらっても数センチの間から顔をのぞかす方もいたりして苦労したが、訪問を重ねるにつれ徐々にうちとけてこられ、ドアの開閉が数センチから数十センチとなり今ではケア連絡員の訪問を心待ちにして下さるようになった。

相談内容については、入居当初は住環境の苦情、かかりつけ医の問題（通院の交通手段や仮設近辺での病院探し等）、救援物資の配付の不公平さといった問題が主に取り上げられ、入居者が環境に慣れるにつれ近所づきあいができてきた反面、テレビ等の騒音問題など近隣とのトラブルや苦情がでてきた。梅雨時には、洗濯物が干せないといったことから害虫の発生、犬の問題、夏場の暑さ対策、花火やバイク等の騒音問題、冬場の隙間風といったことまで連絡員に寄せられる相談は多岐にわたった。すぐに対応できるもの

と、そうでないものがあり、そのニーズがすぐに形にあらわれない場合にはその不満が直接連絡員にぶつけられることもあった。最近では住宅問題やふれあいセンターの運営についての問題が多く寄せられている。

ケアネットでは、仮及び仮設住宅ごとに市内を8つのブロックに分け、市高年福祉課、市総合福祉センター、在宅介護支援センター、社会福祉協議会が担当し、ケア連絡員より報告を受けた対象者からのニーズに対処していった。その中で処遇困難なケースについては、処遇検討会により解決を図っていった。そして各担当ブロック間の連携を密にするため、概ね1週間に1回程度ブロック会議を開催し、情報提供やブロック間の調整を図るとともに、仮設住宅支援に取り組んでいった。



事業概要表

	事業名	事業概要	8年度への課題・展望
交流促進事業	総合相談とふれあいの集い 仮設住宅ふれあいの集い事業	市内13仮設住宅ごとに、保健・医療・福祉・住宅・法律等の相談とふれあいの集い（イベント）を開催。 【仮設住宅参加者271人、ボランティア・スタッフ等382人、相談延件数396件】 市内5ふれあいセンターごとに、ボランティアによるふれあいのつどい事業（手芸等趣味の教室等）の開催。	震災復興を中心とした事業から被災者の自立支援に向けた事業を展開予定。 （継続事業） 誰もが参加しやすいプログラム（メニュー）作りと家に閉じこもりがちな人の参加呼びかけが課題であ
生活支援事業	仮設住宅ケア連絡員派遣事業 健康相談事業	仮設住宅ケア連絡員15名が、概ね2週間に1度仮及び仮設住宅に住む高齢者・障害者世帯に対し、各種福祉サービス等の情報提供及び安否確認、世帯状況の確認を行う。 【延訪問件数6,942件、延活動時間879.9時間】 【調整会議等時間516.7時間（月1回開催）】 毎月1～2回、各ふれあいセンターにおいて保健婦による血圧測定及び健康相談を開催 【5ヶ所延 45回実施、相談等件数442件】	（継続事業） 恒久住宅への転居が進む中で、なおかつ仮設生活を余儀なくされている要援護者に対しての心のケアを中心に取り組む予定。 （継続事業） 住宅相談、法律相談も合わせて実施していく予定。
Vコーデイネート	仮設住宅ボランティア支援事業	仮設住民、民生委員、担当ブロック、ケースワーカー等の依頼に応じて、引越手伝い、通院介助、買物代行、網戸取付け、手話通訳、話相手等のボランティア派遣をし、援助を行った。 【仮・仮設住宅への援助 26件、ボランティア延 45人】	（継続事業） 仮設住宅支援ボランティア本部（ボランティア連絡会内）協力を得ながら継続して取り組む。
専門機関連携事業	仮設住宅ケアネット事業 なんでも無料相談会事業	要援護老人保健医療福祉システム特別事業として、実務責任者レベルで解決可能な課題について協議を行うと共に助言、援助等によりケアネット各機関への日常的支援を行う。 法律、税金、登記、建築、福祉問題等についての無料相談会の実施（相談員：弁護士、税理士、司法書士、一級建築士、社協職員等）	（継続事業） 主に公営住宅及び恒久住宅への移行がスムーズに行えるよう仮設住宅の統廃合も含め支援していく。 （継続事業） 子午線サークルと協力して実施。

ふれあいセンター状況

(1996. 4. 1現在)

地区名	仮設数	開所月日	開設日数(週)	開設時間	運営委員の構成	主な事業内容	社協の関わり
-----	-----	------	---------	------	---------	--------	--------

明石公園仮設ふれあいセンター	144/154	H7. 7	7日	9:00~17:00	仮設住宅住民により構成	保健婦による健康相談(月2回) 季節ごとのふれあい行事(随時) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	ボランティア派遣等 ボランティア派遣等
大久保東原仮設ふれあいセンター	187/218	H7. 7	7日	9:00~17:30	仮設住宅住民により構成	健康相談とふれあいの集い(月1回) カラオケ等のつどい(毎日) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	プログラム提供とボランティア派遣等 ボランティア派遣等
中崎公園仮設ふれあいセンター	94/101	H8. 1	7日	9:00~17:00	仮設住宅住民により構成	保健婦による健康相談(月1回) カラオケ等のつどい(毎日) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	ボランティア派遣等
川端公園仮設ふれあいセンター	66/75	H8. 1	6日	13:00~17:00 (午前は随時)	仮設住宅住民により構成	健康相談とふれあいの集い(月1回) カラオケ等のつどい(毎日) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	プログラム提供とボランティア派遣等 主催事業
西明石仮設ふれあいセンター	45/50	H8. 1	7日	9:00~17:00	仮設住宅住民により構成	健康相談とふれあいの集い(月1回) カラオケ等のつどい(毎日) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	プログラム提供とボランティア派遣等 ボランティア派遣等
上が池仮設ふれあいセンター	54/62	H8. 1	7日	9:00~22:00	仮設住宅住民により構成	健康相談とふれあいの集い(月1回) カラオケ等のつどい(毎日) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	プログラム提供とボランティア派遣等 ボランティア派遣等
奥北野仮設ふれあいセンター	53/66	H8. 3	7日	9:00~17:00	仮設住宅住民により構成	健康相談とふれあいの集い(月1回) カラオケ等のつどい(毎日) 夏祭り、もちつき大会等イベント(随時)	プログラム提供とボランティア派遣等 ボランティア派遣等

ふれあいセンター全体にかかわる成果と課題

<p>【成果】 仮設住宅のコミュニティ形成の場として、また住民相互のつながりができた。</p>	<p>【課題】 ふれあいセンターに集まるメンバーが固定化してきている。</p>
---	---

